

炎症と臨床検査

責任者名：田中 孝佳

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：講義

◆担当教員

田中 孝佳(口腔外科学Ⅰ 専任講師)

生木 俊輔(口腔外科学Ⅱ 専任講師)

篠塚 啓二(口腔外科学Ⅰ 助教)

大井 良之(歯科麻酔学 教授)

岡 俊一(歯科麻酔学 准教授)

今村 佳樹(口腔診断学 教授)

岡田 明子(口腔診断学 准教授)

篠崎 貴弘(口腔診断学 専任講師)

◆一般目標 (GIO)

口腔領域に生じる炎症、口腔粘膜疾患、血液疾患を治療するためにその病態を理解し、臨床検査との関連を理解する。

◆到達目標 (SBOs)

- 1) 口腔領域に生じる炎症、特に菌性感染による炎症を中心にその症状・治療法を具体的に述べることができる。
- 2) 口腔粘膜疾患の症状・治療法を具体的に述べることができる。
- 3) 臨床検査についてその意義と判定基準を具体的に述べることができる。
- 4) 血液疾患とその口腔症状を具体的に述べることができる。

◆評価方法

平常試験 50%、定期試験 50%で評価する。なお、平常試験の追・再試は行わない。平常試験のフィードバックは試験終了後行う。

◆オフィス・アワー

要事前連絡

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
田中 孝佳	月曜日 17:00~18:00 口腔外科学第Ⅰ講座医局	tanaka.takayoshi@nihon-u.ac.jp 03-3219-8102	
生木 俊輔	月曜日 17:00~18:00 口腔外科学第Ⅱ講座	namaki.shunsuke@nihon-u.ac.jp 03-3219-8355	
篠塚 啓二	月曜日 17:00~18:00	shinozuka.keiji@nihon-u.ac.jp	

	口腔外科学第 I 講座医局	03-3219-8102	
大井 良之	月曜日 17:00~18:00 歯科麻酔学講座医局	oi.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp 03-3219-8130	
岡 俊一	月曜日 17:00~18:00 歯科麻酔学講座医局	oka.shunnichi@nihon-u.ac.jp 03-3219-8140	
今村 佳樹	月曜日 17:00~18:00 口腔診断学講座医局	imamura.yoshiki@nihon-u.ac.jp 03-3219-8191	
岡田 明子	月曜日 17:00~18:00 口腔診断学講座医局	okada.akiko1@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	
篠崎 貴弘	月曜日 17:00~18:00 口腔診断学講座医局	shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	

◆授業の方法

講義形式で行う。多くの視覚素材を用いて口腔領域に生じる炎症、口腔粘膜疾患、血液疾患を治療するためにその病態を理解し、臨床検査との関連を認識する。平常試験は本授業を理解するにあたり必要な基礎医学についても評価する。

【実務経験】田中孝佳：当院口腔外科での臨床経験等の話も交えながら、本教科で学ぶ内容の理論や手技と基礎医学がいかに関連しているのか学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔外科 I)

【実務経験】生木俊輔：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での経験等の話も交えながら、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに関係に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔外科 II・臨床医科学)

【実務経験】篠塚啓二：他施設での口腔外科経験等の話も交えながら、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに関係に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔外科)

【実務経験】大井良之：医師の立場から、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに関係に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(歯科麻酔)

【実務経験】岡 俊一：歯科麻酔専門医の立場から、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに関係に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(歯科麻酔)

【実務経験】今村佳樹：診断学の中で重要な位置を占める臨床検査のデータが示す意味を理解してもらい、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに関係に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔診断)

【実務経験】岡田明子：歯科医師として血液検査のデータの成り立ちを踏まえた上で、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに関係に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔診断)

【実務経験】篠崎貴弘：歯科医師として肝疾患や腎疾患など歯科診療において気をつけなければならない全身疾患の検査方法を理解した上で、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに関係に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔診断)

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

教科書は必ず持参すること。

教科書の記載のない回はプリント等を使用する。

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書 1	口腔外科学 第5版	工藤逸郎 他	学建書院	2016
教科書 2	歯科麻酔・生体管理学	吉田和市 他	学建書院	2020

◆DP・CP

[DP1]コンピテンス：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

コンピテンシー：医の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

[CP1]歯科医学と医療倫理の基礎的知識を習得し社会人としての品格と医療人になるための自覚を養成する。

[DP-4]コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[CP4]歯科医学の基礎知識を体系的に修得し身につけ、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

[DP8]コンピテンス：省察力

コンピテンシー：プロフェッショナルとして生涯にわたり、振り返りを通じて基礎・臨床・社会歯科領域において自らを高める能力を身につけていことができる。

[CP8]各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に教科書を読み、生理学、薬理学、細菌学、解剖学、病理学等の関連領域も含め分からない事項を理解しておくこと。

◆準備学習時間

授業50分1コマあたり2コマ分の準備学習時間を以って予習・復習に当てること。

◆全学年を通しての関連教科

第2学年前期：神経、脈管・感覚器、内臓、組織学、生化学、生理学、運動器

第2学年後期：プロフェッショナリズムと行動科学、人体解剖実習、口腔組織学、発生学、口腔生化学、口腔生理学、

第3学年前期：感染と免疫、微生物、基礎病理、細胞の情報伝達、保存修復学Ⅰ、

第3学年後期：医療コミュニケーション、病原微生物と感染症、薬理学総論、臨床口腔病理、歯科放射線学総論、保存修復学Ⅱ、小児の歯科診療の基礎

第4学年前期：薬理学各論、歯科麻酔学各論、歯科放射線学各論、口腔外科治療の実際、医療面接、歯内療法学、歯周病学

第5学年前期：内科学A、外科学A、耳鼻咽喉科学、精神・神経科学

第5学年通期：臨床実習

第6学年前期：内科学B、外科学B

◆予定表

教科書持参のこと

平常試験は12月8日(水) 衛生学実習及び保存修復学実習Ⅱ終了後第5講堂と第4実習室で17:00から17:30までで行います。

解説は17:30から17:50で行います

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		8.26	2	【遠隔】 1.生命徴候とモニター 1) バイタルサイン (教2) pp.10 2) 生体情報モニター (教2) pp.11-13	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸回数等)の意味を説明できる。 ・生体情報モニターで測定するバイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸数・動脈血酸素飽和度等)の意味を説明できる。 	岡 俊一	E-1-4)-(1)-① バイタルサインの意義とそのモニタリングの方法を説明できる。 E-1-4)-(1)-② 血圧、脈拍数、呼吸数の測定方法と異常所見を説明できる。 F-2-2)-①バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸・体温)を測定し、評価できる。 E-1-4)-(1)-③ 体温の測定方法を説明できる。
2		9.2	2	【遠隔】 2.臨床検査 1) 血液検査(血算)	<ul style="list-style-type: none"> ・血液検査を説明できる。 ・血液の成分、血球の生成と崩壊について説明できる。 ・異常値を示す疾患の概略を説明できる。 	岡田 明子	E-1-3)-①臨床検査の目的と適応を説明できる。 E-1-3)-⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。
3		9.9	2	【遠隔】 2.臨床検査 2) 肝機能検査	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査項目の内、肝機能検査について説明できる。正常値の考え方と検査方法を説明できる。 	篠崎 貴弘	E-1-3)-④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明

							できる。
4		9.16	2	【遠隔】 2.臨床検査 3) 腎機能尿検査	・臨床検査項目の内、腎機能尿検査について説明できる。正常値の考え方と検査方法を説明できる。	篠崎 貴弘	E-1-3)-④各臓器における疾患に特有な検査項目を説明できる。
5		9.30	2	【遠隔】 3.臨床検査・検査データの解釈	・個々の検査データがどのような病態を反映するか説明できる。 ・データとデータの組み合わせの意義を説明できる。 ・検査データに影響を与える因子について説明できる。	今村 佳樹	E-1-3)-①臨床検査の目的と適応を説明できる。 E-1-3)-⑤臨床検査結果と疾患の関係を説明できる。
6		10.7	2	【遠隔】 4. 炎症 1) 炎症の臨床症状(教1)pp.111-112	・炎症の成因と局所的-全身的症状を説明できる。 ・口腔領域の特殊性を説明できる。	生木 俊輔	C-5-5)-①炎症の定義と機序を説明できる。 C-5-5)-②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。
7		10.14	2	【遠隔】 4. 炎症 2) 歯槽骨炎 3) 辺縁性歯周炎 4) 歯冠周囲炎 5) 顎骨骨膜炎(教1)pp.113-115 pp.129-132	・歯槽骨炎、辺縁性歯周炎、歯冠周囲炎(特に智歯周囲炎)、顎骨骨膜炎の原因、症状、処置を説明できる。	生木 俊輔	E-2-4)-(3)-⑥ 主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。
8		10.21	2	【遠隔】	・顎骨骨髓炎の原因、症状および処	篠塚 啓二	E-2-4)-(3)-⑥

				<p>4. 炎症 6) 顎骨骨髓炎 (教1)pp.115-117 pp.129-132</p>	<p>置を理説明できる。 ・放射線性顎骨骨髓炎、ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死、硬化性下顎骨骨髓炎について説明できる。</p>		<p>主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。</p>
9		10.28	2	<p>【遠隔】 4. 炎症 7) 上顎洞炎 (教1)pp.117-119 pp.129-132</p>	<p>・副鼻腔炎、特に歯性上顎洞炎と異物迷入による上顎洞炎について、その原因、症状、治療法を説明できる。</p>	篠塚 啓二	E-2-4)-(3)-⑥ <p>主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。</p>
10		11.4	2	<p>【遠隔】 4. 炎症 8) 顎骨周囲軟組織の炎症 (教1)pp.119-123 pp.129-132</p>	<p>・歯性扁桃周囲炎、所属リンパ節炎、顎骨周囲組織隙の炎症、口腔底の炎症を説明できる。</p>	篠塚 啓二	E-2-4)-(3)-⑥ <p>主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。</p>

11		11.11	2	<p>【遠隔】</p> <p>4. 炎症</p> <p>9) 特異性炎 (教1)pp.123-127</p> <p>10) 歯性病巣感染 (教1)pp.127-129 pp.129-132</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔領域に症状を現す特異性炎の症状、処置を説明できる。 ・菌血症、敗血症、SIRS、歯性病巣感染を説明できる。 	篠塚 啓二	<p>E-2-4)-(3)-(4) 菌血症と歯性病巣感染の病態、症状、検査法及び治療法を説明できる。</p> <p>E-2-4)-(3)-(7) 口腔・顎顔面領域の肉芽腫性炎の種類と特徴を説明できる。</p>
12		11.18	2	<p>【遠隔】</p> <p>5. 口腔粘膜疾患</p> <p>1) 水疱形成疾患</p> <p>2) 紅斑・ビラン形成疾患 (教1)pp.133-137</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔粘膜に水疱を形成する疾患（単純性疱疹、帯状疱疹他）の症状、処置を説明できる。 ・口腔粘膜に紅斑・糜爛を形成する疾患（多形滲出性紅斑、全身性エリテマトーデス他）の症状、処置を説明できる。 	篠塚 啓二	<p>E-2-4)-(4)-(1) 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p> <p>E-2-4)-(4)-(2) 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状及び治療を説明できる。</p>
13		11.25	2	<p>【遠隔】</p> <p>5. 口腔粘膜疾患</p> <p>3) 潰瘍を主徴とする疾患</p> <p>4) 白斑を主徴とする疾患</p> <p>5) 色素沈着を主徴とする疾患 (教1)pp.137-141</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔粘膜に潰瘍を形成する疾患（慢性再発性アフタ、Behçet病他）の症状、処置を説明できる。 ・口腔粘膜に白斑を形成する疾患（口腔扁平苔癬、白板症他）の症状、処置を説明できる。 ・口腔粘膜に色素沈着を主徴とする疾患（メラニン沈着症、色素性母斑）の症状、処置を説明できる。 	田中 孝佳	<p>E-2-4)-(4)-(1) 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p> <p>E-2-4)-(4)-(2) 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状及び治療を</p>

							説明できる。
14		12.2	2	<p>【遠隔】</p> <p>6.歯肉炎および類似疾患</p> <p>7.舌炎および類似疾患</p> <p>8.口唇炎および類似疾患</p> <p>(教1)pp.141-144</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎、舌炎、口唇炎の症状、処置を説明できる。 ・歯肉炎、舌炎、口唇炎の類似疾患（フェニトイン歯肉増殖症、黒毛舌、口角炎他）の症状、処置を説明できる。 	篠塚 啓二	E-2-4)-(3)-⑥ 主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。
15		12.8	2	<p>【対面】</p> <p>9.平常試験</p> <p>※ 水曜日（12月8日）</p> <p>第5講堂と第4実習室で17:00から17:30まで17:30から17:50まで解説を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義を理解するにあたり必要な全知識について試験を行う。本シラバス中の関連教科を参照すること。 ・平常試験の解説 解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。 	田中 孝佳	

